

特集！

JPCOAR 2018年度計画
& 新体制紹介

2018年度にJPCOARが計画中的イベントやその関連情報と、今年度の主な活動を担う運営委員会・作業部会・タスクフォースをご紹介します。JPCOAR主催の研修会・説明会等の詳細は、Webサイトや参加機関への配信メールにて適宜ご案内いたします。

オープンアクセス
ウィーク 2018



開催日	テーマ
10月22日 ～28日	Designing Equitable Foundations for Open Knowledge

JPCOARスキーマ説明会

	開催日	会場
第1回	8月6日	NII
第2回	9月6日	神戸大学

国立大学図書館協会総会
ブース出展

総会開催日	開催地
6月14日～15日	札幌

CoCOAR刊行

巻号	刊行頻度
4号～7号	4回/年

2019年

2月

1月

12月

11月

10月

9月

8月

7月

6月

5月

4月

2018年

JPCOAR
2018年度総会

開催日

3月13日

JAIRO Cloud
移行相談会（仮称）

開催時期 回数

秋～冬頃 2回

図書館総合展
セッション参加



総合展開催日	会場
10月30日 ～11月1日	パシフィコ 横浜

機関リポジトリ新任担当者研修
会場：NII

	開催日	申込期間
第1回	7月26日～27日	終了 定員到達！
第2回	9月27日～28日	7月2日～8月6日
第3回	10月25日～26日	8月6日～9月3日
第4回	11月29日～30日	9月3日～10月1日

Japan Open Science Summit 2018 協力

開催日	会場
6月18日～19日	学術総合センター一橋講堂他

2018年度 作業部会

作業部会

オープンアクセス基盤の安定的運用を担います。

研修 作業部会

リポジトリ担当者の人材育成を目的として、新任担当者研修を実施します。また、研修会開催を支援するため、依頼に応じて講師派遣・教材提供等を行います。

広報普及 作業部会

JPCOAR内での情報共有と対外的な広報普及を図るため、協会情報誌CoCOARの編集・発行やウェブサイト・コミュニティツール等の管理・運用、フォーラム等の企画・運営を行います。

JAIRO Cloud 運用作業部会

コミュニティサイトを通じたJAIRO Cloud利用機関の支援や、移行サポートを実施します。また、次期JAIRO Cloudの機能向上のため、利用機関の意見を取りまとめ、NIIとの協議等を行います。

J P C O A R

オープンアクセス!

研究者情報 連携TF

国際的な研究者識別子ORCID（オーキッド）について、その普及活動やリポジトリとの連携可能性の検討を行います。

New Task Force: 中長期計画検討TF

中長期計画検討タスクフォースは、2018年度の1年間を活動期間として新たに設置されました。設置の目的は、オープンアクセスリポジトリ推進協会の中長期的目標及び計画案の策定を行うというものです。当協会の目標や活動は設立趣意書にも記載されていますが、2018年5月時点で560を超える参加機関を持つ、大きな機関リポジトリコミュニティとなった今、機関リポジトリによるグリーンオープンアクセスの現状や世界や日本におけるオープンサイエンスの進展などを踏まえた、より具体的な戦略及び行動計画が必要となってきました。

中長期的な戦略、活動計画を考えるには、前身である機関リポジトリ推進委員会が2013年に出した「大学の知の発信システムの構築に向けて」（竹橋宣言）についても、公表から5年が経過した現時点での評価を行うことが必要であると認識しています。

大学の知の発信システムとして学術情報流通変革の機能を担う、機関リポジトリのこれからのあり方を考えることが、会員機関の8割以上が利用するJAIRO Cloudの次期システムへの要望を取りまとめるためにも必要となっています。

このタスクフォースにおいては、中

長期計画案について10月頃を目途に作成したいと考えています。その後、協会における議論を経て、今年度の総会にて策定することを予定しています。オープンサイエンスを含む学術情報流通のあり方、次期JAIRO Cloudの機能とこれからの運用について、また、機関リポジトリのコンテンツや人材育成などについて、会員機関のみならず一緒に考えていきたいと思ひます。

（中長期計画検討タスクフォース）

タスクフォースのご紹介

メタデータ 普及TF

JPCOARスキーマの普及活動と実装支援を行うと同時に、データ連携に係る国際的な情報交換を行います。

JPCOARスキーマ：<http://id.nii.ac.jp/1458/00000024/>
JPCOARスキーマガイドライン：<https://schema.irdb.nii.ac.jp/>

New!

SCPJ検討TF

学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ) について、今後の学術情報流通環境に適したあり方の検討を行います。

New!

中長期計画 検討TF

2013年に機関リポジトリ推進委員会によって策定された「大学の知の発信システムの構築に向けて」を踏まえ、JPCOARとしての中長期目標・計画を策定します。

研究データ TF

RDMトレーニングツールの利用促進と拡充を行う一方で、データ管理に関する情報提供や、データベースレスキューに関する活動を行います。

タスクフォース (TF)

オープンアクセスの先端的機能の開発を担います。

New Task Force: SCPJ検討TF

SCPJ (Society Copyright Policies in Japan) は、NIIからCSI事業による経費支援を受けて構築された、国内学協会の著作権ポリシー情報を一元的に集約提供するサービスです（海外の同様のサービスとしては、Jiscが提供するSHERPA/RoMEOがあります）。機関リポジトリへの論文収録に際して、その論文は公開してもよいものなのか許諾条件を確認するツールとして利用されてきました。

しかし残念ながらCSI事業の廃止に伴って財源を失い、長らく更新が停止されたままになっています。SCPJを所管すべきなのは誰なのか、委託事業と

してはNIIのものであり、またCSIの経費配分の経緯からはコミュニティ活動の一環としてDRFが引き継ぐべきものですが、現状では当時CSI事業を受託して構築した筑波大学附属図書館がそのままシステム及びデータを維持管理しています。

JPCOARでは、これら設置の経緯等を勘案して、SCPJの今後の取り扱いについて主体的に検討するタスクフォースを設置しました。本タスクフォースでは、今後のリポジトリシステムの高度化や情報共有の国際的展開の動向と、費用対効果やデータを維持管理する人的資源の枯渇など現実的な制約も秤に

かけつつ、今年度中に今後の方針を策定する計画でいます。

(SCPJ検討タスクフォース)



学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ)
<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>

2018年度 JPCOAR運営委員会

岡部 幸祐 (新潟大学・委員長)

尾崎 文代 (鳥取大学)

小野 亘 (国立情報学研究所)

折戸 晶子 (明治大学・新)

加川みどり (神戸松蔭女子学院大学)

佐藤 翔 (同志社大学)

島 文子 (京都大学)

荘司 雅之 (早稲田大学)

杉田 茂樹 (上越教育大学・新)

鈴木 秀樹 (筑波大学)

高橋菜奈子 (千葉大学)

林 正治 (国立情報学研究所・新)

原田 博英 (神戸市外国語大学)

山本 和雄 (鹿児島大学)

結城 憲司 (北海道大学・新)

氏名50音順

新任委員よりごあいさつ

折戸 晶子 (明治大学)



機関リポジトリの実務も電子資料関係の業務も全く携わってこなかった私ですが、上司からJPCOAR運営委員をやってほしいと話があり、あまり深く考えずに引き受けました。今は、内容どころか言葉もわからない状態ですが、皆さんにも教えていただきながら少しずつ話についていけるよう頑張りたいと思います。

現在、明治大学の機関リポジトリには、本学刊行物に収録された論文を登録していますが、将来的には本学教員が学術雑誌等に掲載した論文も登録していくよう検討しているところです。運営委員の活動を通して、オープンアクセスを推進していければと思っています。

杉田 茂樹 (上越教育大学)



機関リポジトリの実務を離れてもう8年も経ってしまいましたが、今回JPCOARのお手伝いをさせていただくことになりうれしく思っています。

運営委員会では JAIRO Cloud 運用作業部会の担当を仰せつかりました。自分も JAIRO Cloud をまだ触ったことがない新人ですが、JPCOARは言うなら互助会みたいなもの。コミュニティサイトに会話できる「フォーラム」があります。作業部会との単線的な質疑でなく、参加機関のみなさんが多方向的にワイワイできるとよいと思います。野次馬、便乗なんでもお寄せください！

林 正治 (国立情報学研究所)



今年度より、JPCOARの運営委員を務めさせて頂くことになりました国立情報学研究所(NII)オープンサイエンス基盤研究センターの林正治です。NIIでは次期 JAIRO Cloud (WEKO3) の開発プロジェクトを担当しています。

JPCOARでの活動を通し、日本のOA・OSの推進に少しでも役立てればと思っています。また、次期 JAIRO Cloud もみなさまと一緒に育てていければと思っています。よろしくお願いします。

結城 憲司 (北海道大学)



この度、運営委員と広報普及作業部会を担当させていただくことになりました結城です。

機関リポジトリの実務経験はほとんどないのですが、4月に小樽商大から北大に異動となり、機関リポジトリ HUSCAP と図書館・部局図書室の研究支援を担当する研究支援課長になりました。

学術情報流通は、オープンアクセスからオープンサイエンスへ転換点に差し掛かっているように感じており、その最新の様々な動きをみなさんにお伝えできるように頑張っていきたいと思っています。

また、自分の大学はオープンアクセス・オープンサイエンスにこんなに頑張っているのだといった情報がありましたら、是非お寄せください。

以上の体制にて活動してまいります。引き続きよろしくお願いします！

JPCOARスキーマWebサイトを公開しました。(2018/05/15)

JPCOARスキーマの説明やFAQなどJPCOARスキーマに関する各種情報を提供するJPCOARスキーマガイドラインWebサイトを公開しました。

<https://schema.irdb.nii.ac.jp/>

COAR Annual Meeting 2018に参加しました。(2018/05/14-17)

2018年5月14日～17日にZBW - Leibniz Information Centre for Economics (ドイツ ハンブルク) にて開催されたCOAR Annual Meeting 2018に、山地教授(前運営委員・国立情報学研究所)と松村作業部会員(メタデータ普及タスクフォース・神戸大学)が参加しました。JPCOARの活動紹介やポスター発表を行ったほか、今回の会議で、山地教授はCOARの副議長に就任しています。

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=49# href 230



JPCOARスキーマ説明会を開催します。(2018/08/06, 2018/09/06)

2017年10月に策定したJPCOARスキーマの説明会を開催します。2018年度は学術機関リポジトリデータベース(IRDB)がJPCOARスキーマに対応し、本格的な運用が開始されます。各機関でJPCOARスキーマの適用やサービスへの活用を検討いただくため、スキーマの詳細や適用事例・新IRDBについての説明会を東西2箇所にて開催します。後日、申込ページを公開しますので、是非ご予約ください。

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=49# href 229

参加報告： 13th International Digital Curation Conference

2018年2月19日から22日にかけてスペインのバルセロナで開催された標記国際会議へ参加する機会を得ました。この会議は、研究データの共有や活用をテーマに、英国Digital Curation Centre (DCC)が毎年開催している国際会議で、今回は欧米やアジアから約180名の参加がありました。

会議では、欧州オープンサイエンスクラウドのような研究データ基盤、複数機関や国によるデータサービスといったインフラに関わる話題から、データ管理計画、データポリシー、ガイダンスといった運用に関わる話題まで、幅広く取り扱われました。中には、仮想現実空間を構成するデータをどのように保存していくべきか、といった新しい技術の発展に伴う課題提起もありました。

研究データ管理に関わる人材育成の観点から関心を引かれたのが、複数機関が連携して人的資源を共有する取り組み"Data Curation Network (DCN)"についての発表です。米国8大学とDryad Digital Repositoryを運営するDryadによる取り組みで、ちょうど実装期間に入ろうとしています。各参加機関のデータ管理サービスに研究者から投稿されたデータセットに対し、必要に応じて、DCNが擁する様々な主題知識に精通した19名のデータキュレーターによるデータキュレーションを付与できる仕組みとすることです。単独機関であらゆる専門分野のニーズに対応することは現実的ではないため、このDCNモデルが今後どのような成果を出していくのか注目されます。DCNのWebサイトで公開されている文書では、各参加機

関やDCNの役割や責務、標準化されたキュレーションステップ等、詳細な情報が提供されています。

今回、会議テーマとして"Beyond FAIR - from principles to practice to global join up"が掲げられていたのですが、そのテーマのとおり、2016年に発表されたFAIRデータ原則(Findable, Accessible, Interoperable, Re-usable)を踏まえた上で、これまで積み重ねてきた実践と経験に基づいた、より具体的な議論が多かったように感じました。各発表資料は会議のWebサイトで公開されていますので、ぜひご覧ください。

"13th International Digital Curation Conference" Webサイト: <http://www.dcc.ac.uk/events/idcc18>

参加報告書: <http://id.nii.ac.jp/1458/00000088/>

西薊 由依 (研究データタスクフォース・鹿児島大学)



参加報告 : RDA 11th plenary meeting及びpre-RDAシンポジウム



3月19日～23日にかけて、ドイツで開催された RDA 11th plenary meeting (ベルリン) 及び pre-RDA シンポジウム (ゲッティンゲン) に参加しました。事前にアプリで電車のチケットを購入したら出発駅を間違えていた (幸い空港近くの駅

だったのでタクシーで急行) など、到着早々先行き不安な出張でしたが、ゲッティンゲンに到着してからは順調に情報収集を進められました。

さて、既に多くの方々をご存知の通り、RDAは研究データに関する世界各国の様々な取り組みが発表される場となっています。本会議及びシンポジウムの概要についてはJPCOARウェブサイトで公開されている[報告書](#)をご覧くださいと思いますが、今回特に興味

深かった取り組みとして、ミネソタ大学図書館のLisa Johnston氏がPrincipal Investigatorを務める”Data Curation Network”をご紹介します (当日の[ポスター](#))。

この取り組みは米アルフレッド P. スローン財団の助成を受けて行われており、アメリカの8大学図書館及び Dryad Digital Repositoryを運営するDryadが参加しています。大学図書館で研究データのキュレーションサービスを展開するにあたり、専門のノウハウを持つ人材を各大学図書館で「共有」するモデルの実現を目指しており、専門分野ごとに異なるデータ管理の手法やスキルを補完するために、異動を前提とした人的ネットワークの構築を行う、というユニークな取り組みとのこと。極めて戦略的な人事交流であり、日本の人事異動の枠組みでも実現できそうに見える(?)ところがポイント、と思っています。なお、取り組みは今年度から実際に動き始めている様子、[カレントアウェアネス](#)でも取り上げられています。リンク先も是非ご一読ください。

南山 泰之 (研究データタスクフォース・国立極地研究所)



Data Curation Network datacurationnetwork.org

Data Curation Network参加大学とDryad

編集後記

2018年度最初のCoCOARをお届けします。刊行にご協力いただいたみなさまありがとうございました! (琉大・大谷)

次号のCoCOARでは実施したイベントの様子の一部をご紹介します予定です。ぜひお楽しみに! (富大・西村)

業務の傍ら、ネタを求めて徘徊する日々……興味のある事柄・お知らせしたいことなど、どしどしお寄せください! (鳥大・中谷)

Webサイト: <https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/jpcoar/>



JPCOAR Newsletter: CoCOAR 第4号

2018年7月2日 発行

オープンアクセスリポジトリ推進協会